

# 【業績集】

## 1. 書籍、雑誌

## 2. 学術論文

荒木 勉(会長・座長):第 144 回日本循環器学会北陸地方会, 2022 年 6 月, 金沢.

荒木 勉(座長):金沢西地区薬剤師合同勉強会, 2022 年 9 月, 金沢.

Yukihiro Shirota, Yoshimichi Ueda, Katsuaki Sato, Yasuhito Takeda, Yuji Hodo, Tokio Wakabayashi: Solitary extrahepatic hepatocellular carcinoma in vertebrae without a primary lesion in the liver might originate from bone marrow: a case report and new hypothesis based on a review of the literature and the latest findings, *Clinical Journal of Gastroenterology* 2022; 15: 1115-1123. DOI: 10.1007/s12328-022-01701-w

Tsuyoshi Suda, Yukihiro Shirota, Yuji Hodo, Katsuaki Sato, Tokio Wakabayashi: Mucosal color changes on narrow-band imaging in esophageal eosinophilic infiltration, *Medicine* 2022; 101(38): e29891. DOI: 10.1097/MD.00000000000029891

Tsuyoshi Suda, Yukihiro Shirota, Hiroaki Takimoto, Yasunori Tsukada, Kensaku Takishita, Takahiro Nadamura, Masaki Miyazawa, Yuji Hodo, Tokio Wakabayashi: Image quality of abdominal ultrasonography after esophagogastroduodenoscopy is preserved by using carbon dioxide insufflation: A non-inferiority test in the same subject, *PLOS ONE* 2022; 17(9): e0275257. DOI: 10.1371/journal.pone.0275257

Akihiko Kida, Yukihiro Shirota, Fumitaka Arihara, Jun Asai, Koichiro Matsuda, Kaheita Kakinoki, Mitsuru Matsuda, Akito Sakai, Mitsuhiro Terada, Takeshi Urabe: Biliary stones or ulcers at the choledochojejunal anastomotic site involving the jejunal mucosa at stent removal may be recurrent factors in patients with benign choledochojejunal anastomotic stenosis undergoing endoscopic biliary stenting using fully covered self-expandable metal stents, *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences* 2022; 29(9): 1044-1053. DOI: 10.1002/jhbp.1167

若林 時夫, 竹田 康人, 方堂 祐治, 代田 幸博, 吉江 雄一, 富田 剛治, 上田 善道:造影 CT にて遅延濃染像を呈する線維化領域を伴った膵管内乳頭粘液性腺癌(IPMC), 非浸潤性の 1 例, *膵臓* 2022; 37(5): 265-273. DOI: 10.2958/suizo.37.265

河合宏之、南雲政裕、久島康嘉、河合康典、岸谷都:繰り返し学習制御と機能的電気刺激によるペダリング運動、システム制御情報学会論文誌 2023;36:48-54

竹治明梨 (学会発表)、藤澤雄平、水島伊知郎、川野充弘:シェーグレン症候群における高IgG血症の腺外病変発症リスクに関する検討, 第30回日本シェーグレン症候群学会学術集会, 2022年9月, 金沢.

竹治明梨 (座長):母性内科からみたRA診療, JOY in KANAZAWA 2022, 2022年10月, 金沢.

竹治明梨 (トレーナー):リウマチ性疾患診療における関節超音波の有用性—手指・手首・足趾・膝(膝蓋腱含)—, 石川県関節エコーセミナー, 2022年5月, 金沢.

竹治明梨 (トレーナー):リウマチ性疾患診療における関節超音波の有用性—足関節(アキレス腱含)・肘・肩—, 石川県関節エコーセミナー, 2022年10月, 金沢.

宮永達人 (学会発表)、竹治明梨、藤澤雄平:BCG膀胱内注入療法後に急性多発関節炎を呈し, MTXおよびTNF- $\alpha$ 阻害薬が奏功した一例, 第66回日本リウマチ学会学術集会・総会, 2022年4月, 横浜

藤澤雄平 (学会発表):困難な透析シャントPTAにシャント3D-CTが血管走行に把握に役立つもののシャントPTAを断念した一例, 第67回日本透析学会学術集会・総会, 2022年7月, 横浜

藤澤雄平 (座長):高齢RA患者治療におけるバリシチニブの存在価値、Olumiant RA Conference, 2022年10月, 金沢

藤澤雄平 (座長):いつでも・どこでもフットケア～病院・クリニック・在宅・コロナ渦まで～、フットケアwebセミナー in Ishikawa, 2022年10月, 金沢

藤澤雄平 (講演):CKDを含めた腎疾患の治療介入, 慢性腎臓病を考える会, 2022年12月, 金沢

藤澤雄平 (コメンテーター):Cutting Balloonの切れ味を考える!!、2023年3月, webセミナー

藤澤雄平 (講演):～心不全と慢性腎臓病の関連性について～, 心・腎病診連携Webセミナー, 2023年3月, 金沢

塚田靖憲:透析患者における末梢動脈疾患に対する下肢血管超音波検査の有用性, 日本透析医学会雑誌, 2022.3

### 3. 学会・研究会・講演会演者

代田幸博 (発表), 竹田康人, 方堂祐治, 若林時夫:組織学的に肝細胞癌と診断された胸椎腫瘍の一例, 日本消化器病学会北陸支部 第133回支部例会, 令和4年6月5日, 福井県福井市.

代田幸博 (発表), 竹田康人, 方堂祐治, 若林時夫:新型コロナウイルス第6波中, 事後に感染が判明した内視鏡診療実施2例の経験, 第118回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会, 令和4年7月3日, 福井県福井市.

竹田康人 (発表), 方堂祐治, 代田幸博, 若林時夫: 胃癌術後長期経過後に発症した栄養障害の改善に高力価パングレアチン製剤が有効であった 2 例, 日本消化器病学会北陸支部 第 134 回支部例会, 令和 4 年 10 月 16 日, 石川県金沢市.

方堂祐治 (発表), 竹田康人, 代田幸博, 若林時夫: 自作ループスネアを用いて内視鏡的に直腸異物を除去した 1 例, 第 119 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会, 令和 4 年 11 月 27 日, 石川県金沢市.

川北整 (発表), 岸谷都: 二次性骨折予防継続管理料新設に対する当院の取り組み, 第 53 回日本リハビリテーション医学会北陸地方会, 令和 5 年 3 月 4 日, 金沢市.

西村康平 (発表), 武田仁裕 (共同演者), 藤本彩 (共同演者): COVID-19 感染後に 1 型糖尿病を発症した一例, 日本糖尿病学会中部地方会, 令和 4 年 11 月, 富山.

藤本彩 (発表), 西村康平 (共同演者), 武田仁裕 (共同演者): 新型コロナワクチン接種後に発症したバセドウ病の 1 例, 日本内分泌学会北陸支部学術集会, 令和 4 年 11 月, 福井.

北川亮 (発表), 西村立也 (共同演者), 山城輝久 (共同演者), 河合慈 (共同演者): 頸椎後方固定術における椎孔周囲スクリュー(paravertebral foramen screw: PVFS)と脊椎術後感染に対する iSAP と抗生剤含有セメントによるインプラント包埋法の小経験, 第 32 回北陸脊椎脊髄外科研究会, 令和 3 年 12 月, 金沢.

北川亮 (発表), 西村立也 (共同演者), 山城輝久 (共同演者), 河合慈 (共同演者): 透視下腰椎神経根ブロックの放射線量を 1/10 にする被爆低減法, 第 95 回日本整形外科学会学術集会, 令和 4 年 5 月, 神戸.

多壽遼子 (発表): コロナ禍における緩和ケア病棟の取り組み, 第 28 回石川緩和医療研究会, 令和 4 年 12 月, 金沢市 (ZOOM).

幸才瑞葵 (発表), 森健太郎, 西知子, 原淳子, 西祐生, 出口美由樹, 盛岡哲也: 膝関節機能は良好にも関わらず、立ち上がり動作のしにくさを訴えた TKA 術後の一症例, 第 31 回石川県理学療法学術大会, 令和 4 年 2 月, オンライン.

島田美彩希 (発表), 森健太郎, 米倉佐恵, 下崎研吾, 間所正嗣: 左大腿二頭筋・半腱様筋腱断裂を呈し腱縫合術を施行した高齢者の症例, 第 10 回日本運動器理学療法学会学術大会, 令和 4 年 9 月, オンライン.

浜川健 (発表), 宮本知華, 西谷厚, 平島奈央子, 川北 整: スマートフォン操作を獲得し社会参加・対人交流が可能となった頸髄損傷の一症例～スイッチアクセス機能を使用して～, 石川県作業療法学会, 令和 4 年 7 月 2～3 日, 金沢市.

浦田恵 (発表), 渡辺航平, 下郷遙, 野澤寿規, 堀田博之, 宮腰あすか, 山川友和, 野田奈々絵, 岡嶋早春, 岸谷 都: 代替栄養を使用している回復期脳卒中患者が経口摂取可能となる因子の検討, 第 5 回済生会リハビリテーション研究会, 令和 4 年 10 月, 小樽市.

若杉彩 (発表), 北本順子, 北村友香理, 小池真希: 当院緩和ケア外来の現状に関する報告～ソーシャルワーク記録から～, 第 28 回石川県緩和医療研究会, 令和 4 年 12 月 3 日, 金沢市.

若杉彩 (発表), 北本順子, 北村友香理, 小池真希: 当院緩和ケア外来の現状に関する報告～ソーシャルワーク記録から～, 第 33 回北信越医療ソーシャルワーク研究会, 令和 4 年 10 月 30 日, 金沢市.

越戸和代 (協同演者): 済生会 81 病院のタスクシフト・タスクシェアの実態調査から見えたこと,

済生会学会、令和5年2月、横浜市

北川カズ美(シンポジウム):術前外来について,日本手術看護学会北陸地区,令和4年9月,富山  
Live 配信.

木村知樹(発表):第75回済生会学会,令和5年2月12日,横浜市

島崎沙織(講師):糖尿病治療の地域連携を考える～病院薬剤師の立場から～,金沢西地区薬剤師  
合同勉強会 ～Meet the Expert～,令和4年9月,金沢市

梅下翔(筆頭演者),角紀一郎,野村優希,今井哲也:脊髄損傷後嚥下障害、アルコール性肝硬  
変、慢性膵炎併存患者へ栄養管理を実施し、栄養状態を維持し得た一例, JSPEN2022, 2022  
年5月31日～6月1日,ハイブリット開催(オンライン参加)

梅下翔(メイン講師):第2回 ISPEC セミナー 2022 冬の陣～輸液製剤と水分分布についての基  
本を学ぼう!～, 2023年2月18日,金沢市(Web開催)

梅下翔(講師):石川県薬剤師会 第2回 ICT 委員会特別研修会,オピオイドの不適切使用疑い  
に対し、病院・薬業連携を実施、在宅療養へ移行できた一症例, 2023年2月27日,金沢市  
(Web開催)

森戸敏志(講師):第48回 かがやき薬業連携研究会研修会,令和4年5月,金沢市

森戸敏志(講師):薬業連携 Online Seminar,令和4年7月,金沢市

森戸敏志(座長):タスク・シフティング Meeting in HOKURIKU,令和4年7月,金沢市

森戸敏志(座長):金沢西地区薬剤師合同勉強会～Meet the Expert～,令和4年9月,金沢市

森戸敏志(講師):第3回糖尿病スキルアップセミナー,令和4年11月,金沢市

森戸敏志(講師):石川県薬剤師会 PS 講座ネクスト(11月研修会),令和4年11月,金沢市

森戸敏志(講師):石川県女性薬剤師会 研修会,令和5年2月,金沢市

森戸敏志(座長):第75回 済生会学会 一般口演,令和5年2月,横浜

後藤義之(座長):第22回 石川県感染制御セミナー,令和4年11月,金沢市

後藤義之(講師):済生会薬剤師会研修会(緩和ケア) 研修会,令和4年9月,金沢市

後藤義之(講師):石川県臨床検査技師会 他職種連携研修会,令和5年2月,金沢市

後藤義之(講師):石川県糖尿病療養指導士 研修会,令和5年2月,金沢市

木村美代(講演):つどい場はなうめでの活動,第47回地域緩和ケアカンファレンス,令和3年6  
月8日,web(金沢大学附属病院).

木村美代(シンポジウム):つどい場はなうめでの活動,第34回サイコオンコロジー学会,令和3年  
8月9日,web収録.

木村美代(シンポジウム):コロナ禍でのがん患者支援の現状と課題,北信がんプロ「がんサロンの  
活動を知ろう」,令和3年11月22日,web(県立看護大学).

木村美代(講演):就労にまつわるがん患者の気がかり,産業保健センター就労支援セミナー,令  
和3年2月25日,web(石川県健康福祉部).

## 4. その他

岸谷都(座長):第5回済生会リハビリテーション研究会、平成4年10月23日、小樽市

岸谷都(講義):なでしこ出前講座「いきいきと暮らしつづけるために、いまから始めるリハビリ」

平成4年9月8日、金沢市割出公民館

齋藤優生・多壽遼子(講義):緩和ケア病棟における緩和ケアの実際,金城大学看護学部看護学科成人看護学実習,令和5年1月,金沢市.

齋藤優生(講義):症状マネージメント,ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム,令和4年9月,河北郡.

北川カズ美(教育委員):日本手術看護学会北陸地区役員会,令和4年4月～令和5年3月

角紀一郎(外部評価者):薬学共用試験・客観的臨床能力試験(OSCE),金沢大学薬学部,2022年12月,金沢市

梅下翔:医療薬学フォーラム2022(実行委員),シンポジウム6「緩和ケア」企画担当,2022年7月24-25日,金沢市(Web開催)

梅下翔(オブザーバー):第1回 ISPEC セミナー 2022 夏の陣～SOAPの組み立て方を学ぼう!～,2022年8月6日,金沢市(Web開催)

梅下翔(外部評価者):薬学共用試験・客観的臨床能力試験(OSCE),北陸大学薬学部,2022年11月,金沢市

梅下翔(講師):「緩和ケアで使う薬」について,石川県がん安心生活サポートハウス 学びの会「薬剤師さんと仲良くなろう!」,2022年12月12日,金沢市

森戸敏志(臨床准教授):金沢大学医薬保健学域薬学類,令和4年度

島崎沙織(講師):石川県薬剤師会 石川県中高生薬剤師セミナー2022 令和4年7月,金沢

木村美代(理事):特定非営利活動法人がんと暮らしを考える会,令和3年5月～令和5年5月.

# 【院内研究発表会】

看護部 入退院支援室

『病床管理の現状とこれから目指すべきこと』

発表者：武田 愛美

## 【目的】

新型コロナウイルス感染症の流行下において、急性期病院としての使命を果たすため、効果的な病床管理を目指してきた。病床管理から得た当院の入退院の状況と今後の課題について検討する。

## 【方法】

2022年2月～2022年12月に入院した患者を対象とした。入退院に関するデータ抽出および「病床管理」「医事課」「地域連携」の視点から見える課題を抽出した。

## 【結果】

1. 入院制限を2月、7月、8月、12月の4回経験し、そのうち2月は入院患者数とベットコントロール件数が通常の半数となった。
2. 1日の予約入院を急性期1病棟4床で調整としたが、予約枠が全て埋まることはなかった。緊急入院患者数は維持でき、転院患者数は増加した。
3. 緊急入院を全て個室管理とした調整は、大部屋入院患者の退院促進と転室調整を行うことで個室の回転率を上げることが可能となった。
4. 予約入院を大部屋入院としたことにより、高度急性期からの転院患者や地域の医療機関からの紹介患者が増加した。地域の医療機関からの紹介を断らずに受け入れるには、入退院支援状況・在院日数・院内転棟の実施状況が影響した。

## 【結論】

1. 新型コロナウイルス感染症による個室管理が、病床管理へ影響することはなかった。
2. 急性期病棟における効果的な病床管理は、地域包括ケア病棟および回復期リハビリ病棟の在院日数が影響し、円滑な院内転棟が鍵となる。
3. 経営的な視点で予約入院患者の入院先病棟を再検討する必要がある。
4. 病床管理の院内基準を改正し、院内で入退院のルールを病院全体で共有することが重要である。

看護部 5B 病棟

『新型コロナウイルス感染症が当院看護師にもたらす影響について

～メンタルヘルスケアを含む院内体制の構築にむけて～』

発表者：筆 可菜子

## 【目的】

新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)拡大にて、2020 年 3 月より当院においても、発熱外来の設置、入院患者の PCR 検査の実施や面会制限、COVID-19 感染患者の入院の受け入れが始まり、職員一丸となり対応を進めてきた。医療者の中でも特に病院勤務の看護職のメンタルヘルスが悪化していることが報告されるなど、COVID-19 下における看護師のメンタルヘルスケアへのニーズが高まっている。

今回、当院看護師の COVID-19 下における不安やストレスなどの内容を把握する目的でアンケート調査を実施し、当院におけるメンタルヘルスケアについて現状と課題を抽出した。

## 【研究方法】

調査期間:2022 年 3 月～2022 年 4 月 調査対象者:当院看護師 219 名

調査方法:無記名自己記入式質問紙 分析方法:項目ごとに記述統計を行った

## 【結果】

アンケート回収率 75%であり、そのうち有効回答率 99%であった。COVID-19 における心理的な変化があると回答した人が 98%であった。感染によって職場に迷惑をかけてしまうと感じた人が 89%、COVID-19 罹患への不安が 55%だった。身体的な変化があると回答した人は 60%で、疲労感の訴えが 50%であった。社会的変化があると回答した人は 66%で、周りの人に気持ちが分かってもらえないと感じた人は 26%であった。勤務環境に変化があると回答した人は 95%で、感染対策での業務負担を感じた人が 81%、患者・家族の個別的なニーズに応えられなくなったと感じた人が 57%であった。

当院が実施しているメンタルヘルスケアを知らないと回答した人は 42%であった。求めるメンタルヘルスケアとしては、正確な情報発信が 73%、感染対策の物資の充実が 60%であった。その他に、スタッフ同士のねぎらいや話し合いの場を必要としている人が 54%だった。

## 【結論】

COVID-19 流行下において、不慣れな感染対策への戸惑いと患者・家族へ十分に看護を提供できないことによる職務継続のストレスがあり、心身ともにダメージを受けることで、他者との関係性にストレスが生じていたことがわかった。この負担を軽減するために、管理者からの正確な情報発信、感染対策の知識や技術の習得ができるための仕組み作りが必要である。また、スタッフ同士の話し合いやねぎらいの声かけを求めていることが分かり、面談やリフレクションを積極的に行うことが大切であるとわかった。そして、当院におけるメンタルヘルスケアの認知度が低いことから、メンタルヘルスケアが周知されるような取り組みが必要であり、産業医や保健師など専門的なチームによるメンタルヘルスケアを病院に提案していきたい。

『COVID-19 に罹患した若年成人がん患者との関わりを振り返って』 発表者：袋 真悠子

### 【はじめに】

COVID-19 感染症病棟では患者との関わりは原則リモートとしており、患者と接触する機会をなるべく減らすようにしている。COVID-19 流行後、面会を禁止としている施設が多く、当院でも面会は禁止または制限し対応している。今回、がんの確定診断のための腹膜腫瘍生検予定だった患者が COVID-19 に罹患し、がん診断期から治療開始前までを COVID-19 感染症病棟で過ごした。患者との接触を制限し、家族や友人との面会も出来ない中でのがん患者との関わりや面会実施への取り組みについて振り返り考察したため報告する。

### 【患者紹介】

A 氏 30 歳代男性 妻、子供 2 人の 4 人暮らし  
癌性腹膜炎、多発リンパ節転移の疑いあり、腹腔鏡下腹膜腫瘍生検のため外科病棟に入院予定だったが、入院前の PCR 検査で陽性と判明したため COVID-19 感染症病棟へ入院となった。

### 【結果】

入院 2 日目、腹水穿刺施行し、入院 5 日目に腹水細胞診の結果「原発不明の腺癌であり、腹水は腺癌による癌性腹膜炎によるもの」であることを本人に電話で説明した。入院 7 日目、再度病状説明をするために医師、看護師が病室を訪問し、家族にも伝える必要があることを本人に伝えると、家族にはまだ伝えていないことを話され涙を流された。同日カンファレンスを実施し、面会を実施し家族と過ごす時間を作っていくこと、本人が感情を表出できるよう関わっていくことを話し合った。入院 8 日目、病室内で家族と 3 時間面会し、面会後には面会が出来たことへの満足した思いや、COVID-19 に罹患したことを前向きに捉える言動があった。入院 8 日目、9 日目には自ら両親や上司に電話をかけて病状を話し、インターネットで治療や検査に関して調べ、医師への質問事項をまとめている様子があった。入院 12 日目、笑顔で退院された。

### 【結論】

A 氏は入院前より癌の可能性について伝えられており、入院時は非常に大きな不安の中にあっただと考えられる。がん患者にとって、家族のサポートは不可欠であるが、COVID-19 罹患により家族のサポートを受けにくい状況であった。しかし、対面で面会を行ったことや看護師が患者と共に過ごす時間を増やしたことで A 氏が現状に向き合う機会になり、苦難に立ち向かう力となったと考える。COVID-19 により制限されることが多いが、どうすれば実施できるのかを考え、患者にとって最善なケアを実践していきたいと考える。



## 【目的】

転倒転落インシデントデータから、患者の特性・看護師が実施した対策を明確にし、転倒転落予防対策のフローチャートを作成する。

## 【方法】

1. 研究デザイン:本研究は横断的研究デザインを用いた
2. 研究期間:2021年5月～2022年3月
- 3.インシデント報告分析システム(CLIP)を使用し転倒転落インシデントを分析
- 4.データ集計期間:2019年4月～2021年3月
- 5.倫理的配慮:本研究は医療関連情報及び患者が特定されないよう配慮した

## 【結果】

転倒転落件数(転倒転落発生率、損傷発生率:レベル2以上)は、2019年度276件(3.48%、0.51%)であった。2020年度326件(4.95%、0.63%)であった。2021年度260件(3.43%、0.70%)であった。

2019年～2021年度の転倒転落時の集計結果は、患者の心身状態は、意識障害が1%、高次機能障害が1%、認知症・健忘が22%、せん妄が1%、不穏が9%。下肢障害が12%、上肢障害が6%、歩行障害が21%、その他(構音障害・精神障害・視覚障害・聴覚障害・薬剤の影響下・睡眠中・体調不良)27%であった。自立度は、歩行が21%、監視歩行が25%、車椅子自立が3%、車椅子介助が38%、全介助が0%であった。転倒転落アセスメントシートの危険度は、危険度Ⅰが3%、危険度Ⅱが20%、危険度Ⅲが74%であった。転倒は78%で転落が22%であった。発生場所は、病室が74%、廊下が8%、トイレが5%であった。履物は、ズック・靴が46%、スリッパが17%、裸足が34%であった。

転倒転落後の対策は、センサー設置が198件、ナースコールの指導・張り紙が147件、見守りが50件、訪室頻回が50件、ベッド低床が18件、ベッド3点柵・片側壁付け・L字柵が34件、マットレスの変更が3件、転室が12件、レイアウト変更が4件、環境整備が10件、履物調整が6件、情報共有が13件、薬物調整が20件、身体拘束(4点柵26件、車椅子拘束ベルト等17件)が43件、歩行器準備が17件であった。

## 【結論】

転倒転落アセスメントスコアシートの危険度レベル・認知機能・ADLと看護師の転倒転落後の対策を関連付けた、転倒転落予防対策のフローチャートを作成した。

### 【はじめに】

認知機能と聞くと、記憶を思い浮かべる方が多いと思われるが、高次脳機能障害を呈する場合、記憶の機能のみが障害されているわけではなく(橋本 2008)、基本的な機能障害が複雑に影響し合い、生活に支障が出ている場合が多くある。加齢に伴う知能の低下を理解する場合も同様のことが言える(田中ら 2022)。私たち作業療法士(以下、OT)は、必要に応じて認知機能面の評価を行い、評価結果を踏まえて生活に必要な支援内容を検討する。認知機能面の評価は、主に観察と規定の評価手順に従って行うものがある。認知機能は、基盤的認知能力(意識・注意・記憶・感情)を土台に、比較的独立性が認められる個別的認知能力(空間性能力、言語能力など)を統合して統合的認知能力に向かい、認知能力が実現されるとされている(山鳥 2015)。今回、一般的な認知機能検査として用いられるミニメンタルスケール(MMSE)や長谷川式記銘力検査(HDS-R)などの検査では非認知症群と判定されたが、退院後の生活に不安があった症例を、認知機能検査や観察を重ねることで、退院後の生活支援につなげることができたため、紹介する。

### 【症例紹介と経過】

ケース1は、スクリーニング的な認知機能検査では、特徴がつかめなかったが、入院生活上で衝動性や複雑な指示の理解力低下が伺えた。検査を重ねることで、軽度認知障害の傾向や衝動性の強さが目立ったため、退院後の家事や運転は行わないこととし、サービスの利用につなげた。

ケース2は脳梗塞発症後2週間で退院となったが、全般的な認知機能には大きな問題はなく、注意機能の回復を待って運転再開してもらった。

ケース3は、入院時より会話は可能だったが、覚醒不良で全般的な注意障害が目立っていた。入院の経過とともに覚醒はやや改善し、記銘力などの全般的な認知機能に大きな問題はないことは確認できたが、注意機能の低下があり、ご自身で免許返納を決めてもらった。退院後は家族らの援助や介護保険下のサービスの利用を開始することとしてもらった。

### 【結語】

OTとして、認知機能面の評価を行うことで、患者さんにどのような支援が必要か見極め、退院後の生活再建の一助とするほか、必要な検査を必要な時期に行うことで、認知的フレイルの予防にも寄与できるよう努めていきたい。

## 放射線部

『最新 CT 装置における金属アーチファクト低減技術 SEMER の有用性』 発表者：永井 有沙

### [目的]

撮影範囲内に金属が存在すると、CT 装置では金属周辺で透過 X 線量の低下を招き、金属アーチファクトが発生する。これにより診断に支障をきたす。そこで当院に新しく導入された 80 列 CT (Aquilion PRIME SP iEdition) に搭載されている、金属アーチファクト低減画像再構成技術 SEMAR (Single Energy Metal Artifact Reduction) を利用し、軟部組織への金属アーチファクト低減効果を検討した。

### [方法]

金属アーチファクトの頻度が高い頸部・腹部・骨盤部において、定量評価 AI 法 (Artifact Index) と視覚評価で比較した。定量評価 AI 法では旧 64 列 CT で使用していた再構成関数に SEMAR をプラスした画像と、80 列 CT で新しく加わった AiCE (Advanced intelligent Clear-IQ Engine-integrated) を用いて各部位 10 症例について画像作成し、検討した。視覚評価では定量評価 AI 法で作成された画像を視覚的に評価した。

### [結果]

定量評価 AI 法では、頸部および骨盤部において AiCE+SEMAR で AI 値が最も低い値を示した。腹部では、再構成関数 FC13 (以下 FC13) と比べ FC13+SEMAR で最も AI 値の低下がみられ、AiCE+SEMAR では AI 値が増加してしまう症例も存在した。視覚評価では、どの部位においても金属アーチファクトが低減される傾向にあり、頸部と骨盤部では軟部組織の描出が良好となった。腹部 (おもに腰椎から) の金属アーチファクトについては、軟部組織が良好に描出されたとはいえず、細かなアーチファクトが描出される結果となった。

### [結論]

今回の研究により 80 列 CT で導入された AiCE+SEMAR の使用により、現状よりも臨床に有効な画像を提供可能であることが証明された。特に、頸部や骨盤部において軟部組織への金属アーチファクトが大幅に低減される結果が得られた。

現状、撮影後の画像処理時に、再構成時間がかかることや、撮影部位によっては SEMAR での処理が困難であるという問題点は存在する。しかし、症例の選別や処理方法の改善により、更なる臨床に有効な画像の提供を試みたい。

## 【第 75 回済生会学会 発表論文】

令和 5 年 2 月 12 日（日）

会場：パシフィコ横浜ノース

発表論文	部署	発表者
新型コロナウイルス感染症への看護の振り返り	看護部	高平 真理奈
MRI 検査時における音声映像システム併用の有用性について ～安心快適な MRI 検査～	放射線部	木村 知樹
整形外科手術予定患者の周術期管理における取り組み ～入院前から退院後までシームレスな薬学的管理を行うために～	薬剤部	室田 恵里
腰椎弯症患者に対して脊椎固定術を施行した前後の日常生活動作の変化と介入	リハビリテーション部	盛岡 哲也

## 【看護部事例発表会】

第一部 12月16日（金） 第二部 12月23日（金） 15時00分～16時00分

会場：第1、第2討議室

NO.	発表名	病棟・発表者
1	終末期患者の家族支援を通じて学んだこと	4B病棟 北野 敦大
2	経口摂取不良であるが点滴も拒否が強い患者への対応を振り返って	4B病棟 生瀬谷 綾香
3	抽象的な症状を訴え続ける患者への看護	4B病棟 湊 明香理
4	認知機能低下がある患者の排泄自立支援を通じて学んだこと	4A病棟 川原 帆乃夏
5	転倒リスクが高い患者を受け持ち学んだこと ～患者の思いと安全性を考え関わる重要性～	4A病棟 砂塚 千尋
6	患者と家族の意思決定支援から学んだこと	4A病棟 丸世 歩華
7	身体的苦痛を抱える患者との関わりを振り返って	5B病棟 宮田 詩織
8	処置に拒否のある終末期がん患者との関わりを通して学んだこと	4B病棟 北出 啓太
9	術後の離床が進まなかった患者との関わりを通して学んだこと	4B病棟 伴 未有
10	肺がんの終末期患者と関わって ～苦痛症状の緩和に向けての看護～	4B病棟 宮本 滯奈
11	認知症患者との関わり方を振り返って ～発言・行動の大切さについて～	4A病棟 道口 悠花
12	疼痛により葛藤や不安を感じている患者への関わり方	4A病棟 坂本 菜摘